東由利村報

No.157　1970・9・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）昭和42年7月21日第三種郵便物認可

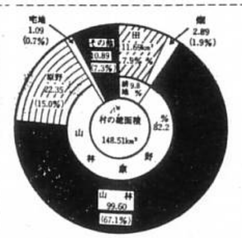
世帯と人口

世帯数	1,586世帯
人口	7,324人
男	3,622人
女	8,702人

前月に比し世帯は1の減
人口は8の増

財政

一般会計	321,057千円
特別会計	85,758千円
内訳 国保	83,600千円
内訳 黒診	792千円
内訳 簡水	980千円
内訳 玉財	368千円



農業は機械で協業を

＝移動県庁で知事が呼びかけ＝

自信失わないで

お集まりの方は、本県の米中心の農業はどうなるのか、また知事はどう考えているのかが、第一の関心事と思う。

いまは確かに苦しいが、ここががまんのしどころであり数年後には、きっと県が主催する移動県庁は、八月二十日、本村住吉小学校に三百人を越える住民がつめかけ、県側からは小畑知事をはじめ、西島農政部長、大村林務部長、斎藤企業局次長、教育庁高石次長、杉本道路課長。地元県議としては、佐藤・木内・村岡の三県議。由利総合庁舎からは財務・福祉・農林・土木の各事務所長らが出席午前一〇時から午後一時すぎまで、時間の経過を忘れるほどの熱心な質疑応答が展開された。住民の中から質問を行なったのは一六人で、うち六人は農政、四人が道路、三人が教育、二人が林業一人が男子工場の誘致をとりあげた。

【関連記事二面にも】

需給のバランスが回復し、五年十年先には、いま以上に増産しなければならなくなる。

関東、関西では、どんどん田がつぶれている。耕地の宅地化、開田が抑制されて、数年で解決が期待できる。ただ農民が、とくに若い人が、その間に自信を失わないような話し合いが必要である。

それでは従来のような経営のあり方でも、見おしが明るいのかというと、労働時間や経費の節約に努力がいると共に、需要に見合う生産をすべきで、単に作りやすいからという安易さは捨てるべきである。米の需給を見おし、余力を、不足している畜産・果樹・林業などにむけるべきである。特に当村には広大な山林原野があるので、活用しだいでは可能性は大きい。

農業の近代化が進むと労力が余ってくる。また冬期間の労力はどうするか。出かせぎは手っとり早いが、さりとて一生末代続けるわけにも行かない。農業問題は農業対策だけでは解決できない。工業の発展によって活路を見出す必要がある。

昭和六十年をめどに、秋田市を人口五〇万の、いまの仙台市規模の産業都市にしたい計画である。道路がよくなれば、ここから一時間で行けるようになろう。また、本荘とか横手とか、各ブロックごとに工場団地を作って、郡内どこからでも三〇分でいどで通勤可能な場所を作りたい。

そういう工場ができると同時に、農業は大型機械を中心に、協業化ができる体制でなければならない。

きょうの話し合いを機会に将来が明るくなったという意欲が生まれれば、移動県庁の成果がある。

新成人の門出

一六一人が参加

昭和四十五年の本村成人式は、八月十五日役場で行なわれた。ことしの該当者は、昭和二十四年四月二日から二十五年四月一日までの出生者一一二人であり、一六一人の出席があった。

式は〝君が代〟の斉唱ではじまり、新社会人への成人証書は、小松村長から代表の高橋節雄君に渡された。また記念品は男子代表の小笠原豊和君、女子代表の大庭喜恵子さんに贈られた。

きょう私たち二〇〇余人は、新しく社会人として認められました。この日を不安がいりまじった気持ながらも、どんなにか待ち望んだことでしょう。私たちがこの世に生をうけたのは、戦後のむざんな生活苦から立ちあがりつつあった昭和二十四年であります。以来今日の社会をつくりあげられた方々に「ほんとうにありがとうございました」と心からお礼を申し上げます。

わが国は、おそるべき速度で多方面にわたり発展成長をとげております。中でも日本経済は大きく変化し、つづいて村長が〝心の健全さを〟と式辞を述べ、長沢議会議長、佐藤教育委員長、本村出身の小松久鼎警捜査一課長らがお祝いを述べた。

これに対し、成人代表の佐藤レイ子さんが、力強い誓いのことばを述べて式を終った。

社会の責務念頭に

成人の誓い　佐藤レイ子

たといわれております。国民総生産が自由世界で第二位という発展ぶりを背景に大阪では万国博が開催されております。この、世界的にも記念すべき年に成人を迎えた私たちは、これからの村を、国を背おって立つ気がまえで、若さをフルに活用し、社会を正しく認識し、築いて行きたいと思います。わが村も、出かせぎの増加、人口の流出にともなう過疎問題などをかかえながらも、新たな工場誘致に、道路の整備に、統合中学校建設にと一歩一歩着実に発展しております。私たち若人も、激動する世相の中で、明るい村づくりに精一杯努力する覚悟であります。ゆったりと底知れぬ力で流れる川も、みなもとは一滴一滴の雨のしずく。一滴では、ねこのひたいすらぬらせないが、川ともなれば山をくずし、また人類に益をもたらす巨大な力ともなります。

詩情あふれる郷土を、地形は、へき地でも、豊かな明日が約束できる村にする仕事が、双肩にあることを念頭に、在郷者、他郷に住む人も共にがんばります。

10月1日

国勢調査

このあと、秋田経済大学講師の佐々木真綱氏（元本荘高校長）が〝欧米の青年と日本の青年〟と題して記念講演を行なった。

団結で食管を堅持

通年土地改良急げ

荘野徳一郎氏（館合）　米の生産調整は、農民に死ねとの政策と感じたが、村長を始めとする説得にあって協力した。次に示される政府の要求として何が考えられるか。

西島農政部長　農業を続けて行く方の不安は当然と思う。昨年五月三十一日に閣議決定した「新全国総合開発計画」にもあるように、七〇％の食糧自給は必要であり、東北・北海道・九州がになうのが適当。ことに裏日本は稲作に適した立地条件と技術があるので、供給できる実力がある。食管制度は、農家の生活を支える根本であるので、守っていかねばならない。

②需要に見合うよう、適地のところから生産をし適さない地域にはやめてもらおう、というのが国の政治のあり方の根本であろう。

③米年から生産調整をしなくてもいいかというと、現段階ではむずかしいといわれている。もしそうだとしたら、このような適正な奨励金があるべきであり、以上三点を国に要望し、県内の各団体でも、手わけして運動を推進しつつある。

小畑知事　荘野さんの不満は、全県農家の不安、不満である。しかし現状を分析すると、これは政府の力だけにたよらないで、われわれの努力と団結で、どこまでも食管を守り将来に備えて行かなければならない。また、二・七％の上昇米価を、良質米増産で三～四％増にする。奨励金の出る間に、どんどん通年施工で土地改良をやる。

何といっても農業県、米の問題がいちばんであるのであらゆる努力をしたい。将来に希望をもって、じっとがまんしてがんばってほしい。

知事、農協合併にカツ

農家自身にけじめ

嶽石伊佐武郎氏（館合）　若い人たちが農業をきらうような傾向だが、お骨折り願いたい。②これからは機械化農業の時代であるが、本村は進んでいない。土地改良の促進を指導してほしい。③私は行政区域内の農協は、一本化すべきとの持論だ。知事はどう思うか。

知事　若い人たちの考えが大事であり、農業近代化ゼミナールや定時制高校の教育などを通じ、農業の重要性を浸透させたい。各位に願いたいのは、小、中学生に農業に興味をとはいっても家庭では朝起きれば「ばかくさい」の運発では自然、子どもの気持もそうなる。農家自身が、なすべきことをなさずすべてが他人の責任だ、何とかしてくれではなく、農業を立てて行くのは「農家自身」だという、けじめをもつ必要がある。②基盤整備はなぜするのかを考えてほしい。大型機械により協業化のためである。この約束が出来るなら基盤整備をやりましょう。

③農協の合併は大賛成というより是非とも。今日、一村に二つということは、理由いかんにかかわらず、時代おくれもはなはだしい。農協は農協の役職員のためのものでない。農協法の第一条に何と書いてあるか。「農協は農業の民主化…農民の社会的地位と経済的地位を向上…」であって、役職員のそれを高めるためでない。きょうお集まりの方が、よしやろうと思えばあすにでもできることだ。

補助がつくなら

安易さ捨てよ

小松正慶氏（畑村）　生産調整に協力しているが、ひとり農民の責任ではない。米が余る見とおしのもとで国の巨費を投じて、例えば愛知用水八郎潟干拓、私たちには増産をといってきた。将来に希望がもてなくなっているので、来年から何をなせばよいか教えてほしい。また来年度買入れ制限がありうるか。

②農村に進出する企業に国は低利融資をすると新聞でみたが、県内を知事の目で見て地域に照らした選定を。

知事　五月二十四日、倉石農相にあい、三点を確認している。

一、ことしは買入れ制限しないか。（しないと応答）

二、二段米価、必要量は高く買い、余剰米は安くという、はしないか。（しないと応答）

三、倉庫が満杯だからと買いのばし、しないか。（しないと応答）。

しかし、その後の首相、農相の言動から推して、四十六年には、なしくずしの懸念もあり、食管堅持の県民運動を展開、がんばっている。

根本的に補助制度の姿勢を考えたい。間に合う合わないの判断をしないで、補助がつくならやろうという安易な取組み方を変えなければならない。従って今後、個々の農家に補助金で釣るようなことはしない。必要なら長期低利の金を貸す方向を考えたい。

③農村工場敷地の決定は、町村と十分相談をして行なっており、工場のいいなりになっていない。

品種改良の相反点

作る側売る側の差

佐々木宇一郎氏（大琴）　農協大琴支所の給油所ふきんの側溝が未完成で、利用者が困っている。即時着工を願いたい。②米の商品価値は食味だと生産者も自覚している。はたして県が発表した奨励品種が、育った地域を異にしても、同じ食味が出るかに疑念を感じる。適地適産の品種改良に留意を。

道路課長　側溝のことは、あすにでも調査してやりたい

農政部長　品種によって、確かに育ちやすいところとそうでないところはあると思う。しかし、栽培指導の面で地域に適するよう、キメ細かにやっている。

知事　品種改良には、二つの相反した面がある。自主流通米には銘柄が必要であり、代表選手を送らねばならない代表選手は、数が少ないほど知名度が出る。作る側の、品種の数は多くても、地域にピッタリした、という希望と反するわけである。

減産奨励金

県が代行できるか

長谷山三郎氏（舟木）　生産調整――奨励金の交付は来年もありうるか。もし国が交付金を出さなかったら、県で出すか。②国道一〇七号線、山内―大やな間の未改修部分の完成はいつか。

道路課長　トンネルは十月一日に一般開通する。未改修区間には、今年度から一部着工し、おそくとも四十八年までには完了させる。

知事　生産調整は二、三年は続くと思う。いったんつけた奨励金は削らせてはおかない。しかし県は上積みしない。②山内―大やな間、道路課長は最長期限をいったのであって、これはできるたけ縮める整備を進めねばならないが、本村では、今後の二次農構、県営土地改良事業には該当しない地域が多い。現在の指定一三地域以上に、もっと拡大してほしい。

農政部長　要求があれば予算をつけてもらう。

知事　小規模へき地土地改良事業は秋田県独得のものである。これは二〇％以下のところにということにしてあるが、生産調整に協力をし、通年施工でやろうという個所は二〇％にこだわらないことにしている。

へき地土地改良

該当地の拡大を

小松与惣雄氏（松沢）　基盤

今月の行事

1日・防災の日
・がん征圧月間

4日・70歳コンテスト役場で1時から

6日・由利東部四町村青年広域交流会、本荘高校下郷分校で

7日・13日まで村内秋の清掃週間

8日・17日までブルセラ検査村内13個所で

9日・栄養改善講習会9時から役場で

10日・民生委員会議
・15日まで村内小学校区で敬老会

11日・妊婦検診1時～4時まで役場

15日・老人福祉週間はじまる

16日・百日せき、ジフテリア破傷風予防接種蔵小で

17日・同、玉米小学校で

18日・30日まで脳卒中予防特別対策の二次検診

22日・議会定例会

24日・三歳児検診、蔵小学校
・25日は同、玉米小学校
・国勢調査準備調査開始
・結該予防週間はじまる

たばこは村内で

昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利村報

昭和45年9月1日　第157号

第五回臨時村議会は八月二十二日招集され「過疎地域振興計画」など議案二件を可決した。このほか、常任委員会委員の指名がえをし、正副委員長の選任をした。

▼過疎地域振興計画を策定。人口の急激な減少のために、本村は全国七七六市町村（県内では一四町村）の一つとして、自治省から、過疎地域緊急措置法の適用村となった。

そこで村では、生活環境や産業基盤をよくして、人口流出にストップをかけようと、「過疎地域振興計画」を策定した（次号から解説）▼四十五年度村一般会計の補正予算（三回目）。百六十一万九千円を追加して総額を三億二千百五万七千円とした。主な使途は▽老方バイパス道路用地として買収された方に対する補給金四十六万九千円▽中学校建設費に追加百十五万円。このほか、議会の常任委員の構成を変えた。

議会構成

総務委員会
◎嶽石伊佐武郎
○小松豊
小野作右工門
川尻幾郎
小野昭一
長谷山二郎

教育民生委員会
◎田代寿治
○加藤清
遠藤兵一
長谷山千代蔵
藤原虎之助
▽長沢毅

産業建設委員会
◎小松与惣雄
○梅津二三集
長谷山喜市郎
高橋俊一
遠藤正男
▼佐々木宇一郎

▽印は議長、▼印は副議長
◎印は常任委員長、○印は副常任委員長。

人口流出防止に振興計画
議会の委員構成変る

農協合併へ助走か
農政懇談会の話題

東由利、玉米両農協の役職員三〇人が会合して、八月三日役場で農政懇談会を開いた。

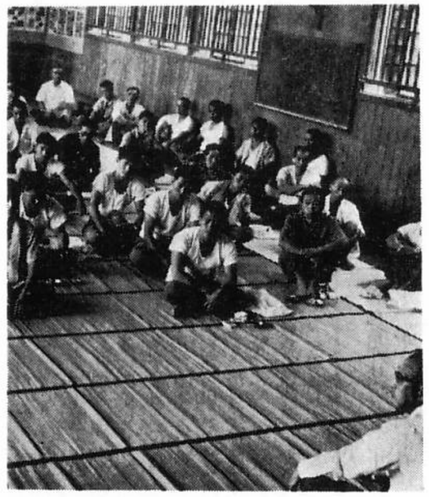
話題は①米作地の農業の将来②本村での圃場整備の方向③本村畜産の問題点④本村人口の予測⑤農協合併の方向であった。

米作地の農業の将来と圃場整備の方向では、▽個々の農家が農機具一式を全部保有しているが、農協が協業化の方向で指導性をもつべき。▽田植え機の普及と共に農協が育苗センターを。▽バインダーの導入が進むとみるその場合、田んぼで脱穀、もみのまま貯蔵できるよう、農家個々ではなく、協業を前提とすべきである。▽圃場整備は、県営整備事業は補助率高いがラッシュが続いており、十年も待たねば順番が廻って来ない。それまで待つか、補助率は安くても急いだほど、将来への取組みが早くなる。

畜産の問題点では、▽一家に二〇㌃の草地があれば、専業が可能。しかし牧草地にのりこみ、そこを根拠にしなければ成功しない。▽村内多頭飼育家の例、三〇頭の肉牛を飼っているが、わらと飼料でやっている人もおり、草はそれほど苦にしていない。ともかく、飼う楽しみよりも、売る楽しさを追求している。

農協合併では、すべきだという意見。村内の合併より、どうせなら郡一本という大型合併をとの意見。そこで九月上旬に〝農協合併〟単一の話題で、再度会合しようということになった。

積年の大問題ようやく、いとぐちを見出すか、住民の関心事である。



……法内地域での話し合い

法内県道に明るいきざし

県道、法内線の改良は、肝心の地元との用地問題が障害となって、折角ついた予算がフイにもなりかねないようすであり、そこで地域住民と打解策を練るために、八月一八日法内小学校で移動村民室を開催、地元の熱意に問題をゆだねた。その結果、八月二十三日、再び地域民が会合して同地域でもつ、共有地を代替え地に、地主と接渉を進めることとなった。

医療を受けるときには保険時間内に

医師の診療を受けるときには、保険診療時間内にしてほしいと、このほど県医師会から協力方の申入れがあった。

保険診療時間は、本村の場合、午前八時から午後四時まで。

【解説】同線の改良は、さきに岩館地内が全面舗装を完了、昨年度は岩館の法内側坂の基部から二〇〇㍍の予算化がされていた。法内地域では、この道路の改良いかんが日常生活を快適にするか否かの分岐点であるため、丸山橋を境に、いわゆる法内分のつぶれ地には異論が出ないよう地域民が、こぞって誓約書を入れてある。しかし問題の個所は、丸山橋にいたる間、約三〇〇㍍であり、法内地域としては、領域外であるから、領域内で解決すべしが持論であった。しかし押問答の間に時日は経過、予算をつけても消化ができないでは、県にもソッポをむかれてしまう、村としては苦しい内情を、地域民の選択にまったわけである。

相談のように進むと、来年度には丸山橋は永久橋化、橋にいたる道路改良が完成し、いよいよ法内県道が、地域に入って行くこととなる。

社会人野球は役場

本村社会人野球協会（小松忠晃会長）主催の第一二回村社会人野球大会は、八月十六～七の両日、村内から一四チームが参加して、上の台、台山グランドで開かれ、役場が初優勝をかざった。

【一回戦】
法　内7—1袖　山
宿クラブ　6—1東由利農協
老方クラブ3—1　佐藤林業
役　場9—2　宿
新　町6—5玉米青年会
蔵ローズ　3—0玉中OB

【二回戦】
法　内7—4住吉青年会
老方クラブ3—2宿クラブ
役　場6—4老方郵便局
蔵ローズ　8—2新　町

【準決勝】
老方クラブ3—2法　内
役　場6—0蔵ローズ

【決勝】
役　場8—5老方クラブ

国民年金保険料
月四五〇円

切実な県道改良
除雪体制すっきりせ
引き受けたと県は明快

板垣悟氏（杉森）村には除雪用ブルドーザーが二台あってそれがフルに動けば村道の除雪は可能だとされている。しかし昨年度は、いつも国県道の除雪に使われていて部落には十日に一度ほどしか来てくれない。私のような辺地の生活の貧困は、ひどくなる一方である。

国県道は県が責任を負い、村有機材は村道に専念できる体制をとってほしい。それから平鹿土木事務所管内と由利管内では、除雪に技術的な格段の差があるので、もっと徹底してほしい。

道路課長　今年度は当管内に、ローダー二台、ロータリー車一台、トラック一台、スノーローダー一台の新しい機械五台を新配備して、期待にそいたい。

知事　国道に村のブルを使うようなことは、できるだけしない。平鹿に比し劣るという除雪の仕方、こんどの新土木事務所長は、前平鹿土木事務所長の佐藤所長であり、見違えるほどよくなった。そういわれるくらいやるだろう。

玉米矢島線五百メートルを

小松豊氏（高戸屋）①玉米—矢島線の改良促進を。あと五〇〇㍍改修すれば基幹林道に通じるので、早急にお願いしたい。②鳥海観光の一環に、基幹林道の峯から八塩山にいたる峯づたいの、観光道路を開発してほしい。一面では肉牛の増産に結びつけたい。③季節労務による、失業保険金の受給を、由利はきびしいので、雄・平・仙なみにしてほしい。

杉本道路課長　玉米—矢島線は、当村側は進んでいるが矢島側が残っている。ことしも改修は進めるし、促進したい。

知事　あと五〇〇㍍を改修すれば、ということであり、できるだけ急ぐようにしたい

斎藤企業局次長　②鳥海山は地域のポイントであろう。矢島—院内の一〇八号線上には栗駒山があり、鳥海山と直結する。観光は車の利用によりルート化の時代であるので一〇七号線をつなぐ前提で考えたい。

知事　一口に観光だけでは予算はつけがたい。お話のような肉牛の牧場にしたいという角度であれば、相当の協力ができるので、地元の話し合いがほしい。

本荘職安・業務課長　仕事のない人にあっ旋するのが主眼である。また地域の建設事業の推進にも、力ぞえしており、失業保険金の受給のみに捉われないよう希望したい。

知事　職がなく困っている人に支給するのがねらいで、なまけ者をつくる制度ではない。しかしむりな職場へのすすめ方は、してならないし、はたして由利地方が他に比べ問題があるとすれば検討がいる。

法内県道の改良スピードアップを

田代寿治氏（蔵—大曲線の改良促進。昭和四十年から改良に着手し、六〇〇㍍ほどが完成している。しかし未改修区間が六㌔余もあり、冬期交通のための除雪はできない、通学に難儀するなど、沿線住民は非常に不便をしている。改良速度を早めてもらいたい。

②未改修木橋の永久化と、河川の護岸工事など、公共事業量を増してもらいたい。

道路課長　国道一〇五号線に結ぶ路線として考えて行きたい。改修順位としては交通量の多いところからやっているが、年々予算を増額し一日も早く完成させたい。

橋の永久化は、四十六年度蔵—大曲線に一橋、山崎鴻屋十文字線に一橋の計画である。河川の護岸工事を要する場所で、予算化していないところは調査したい。

知事　坂部に通じる道路はぜひ車で行けるようにしたいしかしあって表通りが先になるので、思うように予算をつけかねているが、もっと多くつけたい。もちろん県道だが、村でも何かアクセントをつけるような相談がほしい。

護岸は、特に放っておけない個所の指摘があれば手当をしたい。

バス路線の舗装四年で完成と知事

川尻幾郎氏（黒淵）県道玉米—羽後線の、人家連たん地域外二、七〇〇㍍は、四十七年度から舗装してほしい。

道路課長　おそくとも四十九年度までには、バス路線を重点に舗装したい。

知事　県政のスローガンの四十五年度までには人家連たん県道は全舗装。四十六年度までには県道の橋を永久化。これはやる。そこで今後四年間でバス路線は全部舗装することを、看板にかかげたい。

青年研修で希望

遠藤熊雄氏（新処）青年会のリーダー講習が、中央で盛んに開かれるが、本村のように遠い地域からは、経費面もあって参加しにくい。この面への考慮がほしい。

知事　全県入れかわりたちかわりに、多くの青年に活用してもらうので、研修の場所をよくし、宿泊料は安くつくよう努力している。青年の家も立派なものを建てた。ただ旅費の点までは目がとどかないが、全県の問題として町村長とも相談して、今よりはよいものにしたい。

高校を全日分校に

藤原虎之助氏（老方）一週間に四日通学しているのを、もう二日通わせると全日制の課程が終えられるので、定時制分校を全日制分校にしてほしい。また、人手のないときに四年の修学は負担だし、一週に二日の職場もない。この例は岩手県で行なわれている

教育庁次長　下郷分校は例年一四〇～五〇人の在籍があり、一〇〇人を越える県内六校のうちである。そこで当校は、定時制のモデル的分校として校舎・物的・人的にも充実に努めている。

全日制にするには、全県的にも中学生数が減る傾向なので問題があるし、県教委では考えていない。

知事　外国でやっているように、夏は休ませ、冬みっちり勉強させるとか、農村の定時制高校の特色をもたせるような運営の仕方には検討するが、全日制に転換ということには首を傾げる。

スクールバスにほしい高い助成

佐藤松之助氏（館合）中学校統合に続き、小学校統廃合を考えると、遠距離通学児童をどうするかが重要課題である。

現行の、へき地教育振興法でスクールバスを購入すると二分の一補助で、しかもワクは昨年度秋田県には一台という現況である。

これを、公立学校文教施設整備の制度で認められれば、三分の二補助、残額については起債や地方交付税で優遇措置が講じられるなど、村の財政負担が軽くなる。この点に努力を願いたい。

教育庁次長　十分期待にそうよう努力して行きたい。

林業にも組織が

渡辺福蔵氏（田代）外材に押されて木材価格が安く将来が暗い。また造林でも労力がないので転機にある。二～三㌃の小林地にも、間伐林道ていどの開設がほしい。

大村林務部長　ソ連材などと、間伐などの質の悪いものとの間に競合関係がある。外材は今のまま、輸入が続くと考えられないし、造林は心配だということは起らない。

外材と戦うには、いかに安く出すか、取引き単位をどう大きくするかであり、林家個々の持ち分を組織的にして、計画性をもたせるべきだ。

知事　間伐林道ていどのものは、村か森林組合にやってもらいたいが、由利の民有林の最大の問題点であるなら考えてみたい。

価格上昇へ仲介を

小松慎一氏（高戸屋）木材価格の下落と、人件費の高騰に苦しんでおり、つぎの三点を願いたい。①簡単な間伐林道への助成②建設中の木材コンビナートに民間林有家を結びつけ、それが入り込むスペースを③県誘致の東北製紙に、本荘とどけ立方あたり現行四、六〇〇円を五、〇〇〇円に交渉方を。

林務部長　東北製紙へは直接交渉をしてみた。

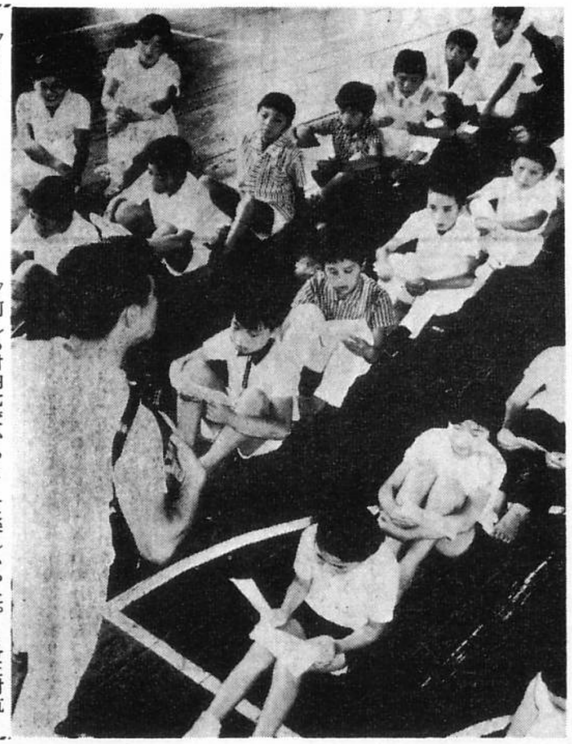
知事　天然スギが底をつき設備の遊休を救うために外材むけのコンビナートを作った②生産性の低い広葉樹を整理し、植林を促進させるために東北製紙は四年がかりで誘致した。山村労働対策にもなり協業で山元でチップにして売ってほしい。機械は貸す。

ブロックごと工場団地を造成

長谷山喜市郎氏（老方）農工一体化構想を推進するためにも、男子が働ける工場誘致に力ぞえがほしい。

知事　一町村一工場ということで、約一三〇の工場が全県三分の二の市町村に分布しているが、今後も特に男子工場の誘致に努力する。

ただ基本的には、中規模以上の工場になると、一町村一工場のワク内では解決できない面もある。そこで広域的に例えば由利、本荘全体で一つの団地という、ブロック単位で進めたい。もちろん一町村一工場も続けて行く。



▽……夏の……一コマ……△

▽夏の子どもリーダー講習会は、酷暑の七月二十九日、老方小学校に村内各小学校から九二人のお友だちが参加して開かれた。

▽何しろ村内七校からとあって、子どもたちはどうしても地域ごとに壁をつくりたがる。そんな彼らに、玉米小学校の三浦先生がアコーデオンをひいて、なじませてくれる。

▽友だちがたくさんできて楽しかった。・各班対抗のソフトボールがしたかった。など、子どもたちは感想、希望を語るかたわら、日常の地域子ども会を・集合時間が守れない・勝手なおしゃべりが多くて…と反省することを忘れない。